

# 学術論文等の オープンアクセス化の推進について

学術情報課雑誌係

# 今回お話する内容

- オープンアクセス義務化の背景
- 「オープンアクセス（OA）の義務化」とは
- やらないといけないこと
- オープンアクセス化の方法

# オープンアクセス義務化の背景

学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（令和6年2月16日統合イノベーション戦略推進会議決定）  
概要

## 基本方針の主な内容

理念

公的資金により生み出された研究成果の国民への還元と地球規模課題の解決に貢献

国全体の購読料及びオープンアクセス掲載公開料の総額の経済的負担の適正化

我が国の研究成果の発信力の向上

2025年度新規公募分\*から、学術論文等の即時オープンアクセスの実現

\*学術論文を主たる成果とする競争的研究費制度を対象

1. 学術出版社に対する交渉力の強化
2. 研究成果を管理・利活用するための情報基盤の充実
3. 研究成果発信力の強化
4. 国際連携等

# 関連する通知・情報・規程等

## 内閣府

学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（令和6年2月16日 統合イノベーション戦略推進会議決定）  
[https://www8.cao.go.jp/cstp/oa\\_240216.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf)

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議 令和6年2月16日決定）  
の実施にあたっての具体的方策（令和6年2月21日 令和6年10月8日改正 関係府省申合せ）  
[https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6\\_0221/hosaku.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf)  
※説明資料 [https://www8.cao.go.jp/cstp/hosaku\\_setsume.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/hosaku_setsume.pdf)

## 学術振興会

科研費における論文のオープンアクセス化について [https://www.jsps.go.jp/jgrantsinaid/01\\_seido/08\\_openaccess/index.html](https://www.jsps.go.jp/jgrantsinaid/01_seido/08_openaccess/index.html)

## 大阪教育大学

大阪教育大学オープンアクセス方針 <https://goose.bur.osaka-kyoiku.ac.jp/doc/public/listall.html?rule=1182#>

# 「オープンアクセス（OA）の義務化」とは

## 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」

公的資金のうち 2025 年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者（法人を含む）に対し、該当する競争的研究費による学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける。

即時：掲載後の公開禁止期間（エンバーゴ）がないこと

学術雑誌への掲載後 3 か月程度で「機関リポジトリ等の情報基盤」において公開されることが望ましい。

オープンアクセス：誰でもインターネットから時間や場所の制約なく無料でアクセスし入手できる状態

学術論文：電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文（出版社版又は著者最終稿）

→冊子体の雑誌や図書等は「公的資金による研究助成での義務化としては」対象外

根拠データ：掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる研究データ

→必ずあるとは限らない。また本文とは別に提供される場合もある。



# やらないといけないこと（計画段階）

- 科研費など公的資金による研究助成を受けて作成された学術論文を、即時に無償でアクセス可能なように計画する

→申請時に研究成果の出口（研究成果をどこで公開するか）を想定する必要がある



# やらないといけないこと（実施段階）

## 具体的方策改正（案）概要⑤

「具体的方策改正（案）」（関係府省申合せ）3ページ本文参照

### G. オープンアクセスの実施状況の把握

即時オープンアクセスの実施状況については、各資金配分機関への毎年度の実績報告に記載された情報を基に、「即時オープンアクセス論文数／学術雑誌への掲載論文数」により把握するため、各資金配分機関に対する毎年度の実績報告時に個々の学術論文及び根拠データごとに以下の情報を記載する。

- i. 一般的な書誌情報 <既存>
- ii. 査読の有無 <既存>
- iii. 即時オープンアクセスの実施有無 ※ <新規>
- iv. (即時オープンアクセスの実施無の場合) 即時オープンアクセスが困難な理由 <新規>
- v. 学術論文へのリンク
  - ・ 出版社版のDOI <既存>
  - ・ 「機関リポジトリ等の情報基盤」のランディングページのURL等の識別子 <新規>
- vi. 根拠データへのリンク（機関リポジトリ等の情報基盤のランディングページのURL等の識別子。根拠データの公表が求められていない場合はその旨） <新規>

※転換契約やオープンアクセス掲載公開料（APC）の活用によりエンバーゴなしでオープンアクセスとした場合等について機関リポジトリ等の情報基盤への掲載が、掲載に係る手続きに時間を要することにより実績報告時に未実施の場合においても「即時オープンアクセスの実施有り」を選択。



参考：学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議 令和6年2月16日決定）の実施にあたっての具体的方策（令和6年2月21日 令和6年10月8日改正 関係府省申合せ）説明資料（[https://www8.cao.go.jp/cstp/hosaku\\_setsu\\_mei.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/hosaku_setsu_mei.pdf)）

# 即時OA化をやらなかったら…？



- 現時点では特にペナルティ等は設けられていない

※できなかった理由等を報告する。解決できれば速やかに公開

参考：学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議 令和6年2月16日決定）の実施にあたっての具体的方策（令和6年2月21日 令和6年10月8日改正 関係府省申合せ）の説明資料  
( [https://www8.cao.go.jp/cstp/hosaku\\_setsumei.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/hosaku_setsumei.pdf) )

ただし…

「内閣府は関係府省の協力を得て、即時オープンアクセスの進展を確認するための調査を行い、オープンアクセスの達成状況の把握を行う」

→今後達成状況がどう反映されるか等は不明

# オープンアクセス化の方法

「科研費における論文のオープンアクセス化について」

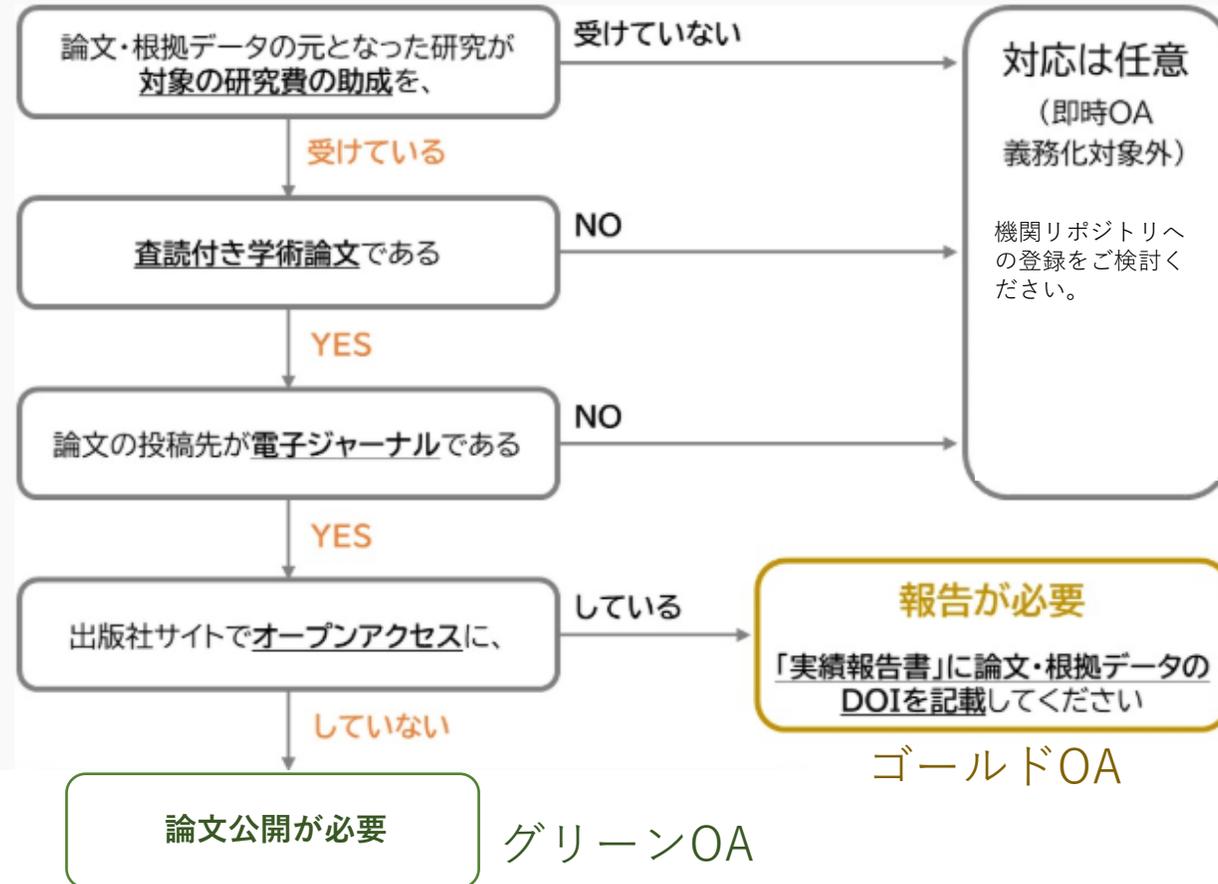
( [https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01\\_seido/08\\_openaccess/index.html](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/08_openaccess/index.html) )

1. 学術雑誌を通じたオープンアクセス（ゴールドOA）
2. 機関リポジトリを通じたオープンアクセス（グリーンOA）



# オープンアクセスの対象とその方法

義務化対象確認チャート



参考：  
神戸大学附属図書館 | 即時オープンアクセス義務化対応  
(<https://lib.kobe-u.ac.jp/oa/mandatory/>)

# ゴールドOA

著者が学術雑誌出版社へAPC（Article Processing Charge：オープンアクセス論文掲載料）を支払うことで、電子ジャーナルサイト上で論文をオープンアクセス化するもの

APCは科研費の直接経費（学会誌投稿料）として申請可

→APCが必要な雑誌への投稿を想定している場合は予め計上を！

APC収入だけを目的とした信頼のできない電子出版社（いわゆる「ハゲタカジャーナル」）には充分ご注意を！



# グリーンOA

著者が自身で論文をオープンアクセス化するもの（≡セルフアーカイブ）

- 機関リポジトリでの公開

大学や研究機関がその所属研究者の知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム

本学も機関リポジトリを運用しています（大阪教育大学リポジトリ）



# グリーンOA化時の留意点

- 掲載誌によって、グリーンOA化に条件が付される場合があります。

例) 著者版最終原稿のみ可、画像に利用制限がある 等

研究計画作成時に、あらかじめ投稿予定雑誌の投稿規定、セルフアーカイブポリシー等をご確認ください。



# 大阪教育大学リポジトリについて

- 大阪教育大学に所属する教職員・大学院学生等の研究および教育成果物を電子的な形態で蓄積し、インターネットを通じて、学内外に広く公開するシステムです。
- 研究データ基盤システム（NII Research Data Cloud）を構成する“CiNii Research”をはじめ、各種検索サービスから検索・アクセスできます。
- OA義務化で公開が必要な学术论文、根拠データとも、リポジトリに登録することができます。
- リポジトリのデータ保存機能とDOI(Digital Object Identifier)の取得により永続的なアクセスができます。

ご参考：大阪教育大学オープンアクセス方針



# 大阪教育大学リポジトリへの登録

※こちらは2025年8月時点のものです。書式や登録申込方法については変更する場合があります。

登録を希望される著作物（原稿ファイル等）と申込書類を学術情報課（附属図書館）雑誌係までご提出ください。

以下の場合にはあらかじめ許諾をお取りいただく必要があります

- 複数著者によるものの場合→共著者の許諾
- 登録著作物内に他者の著作物の転載がある場合→転載の許諾

なお、リポジトリ登録の申し込みをいただいた著作物については、図書館から出版者（学会・出版社等）への著作権等の確認を行ない、許諾後に正式に登録・公開となります。

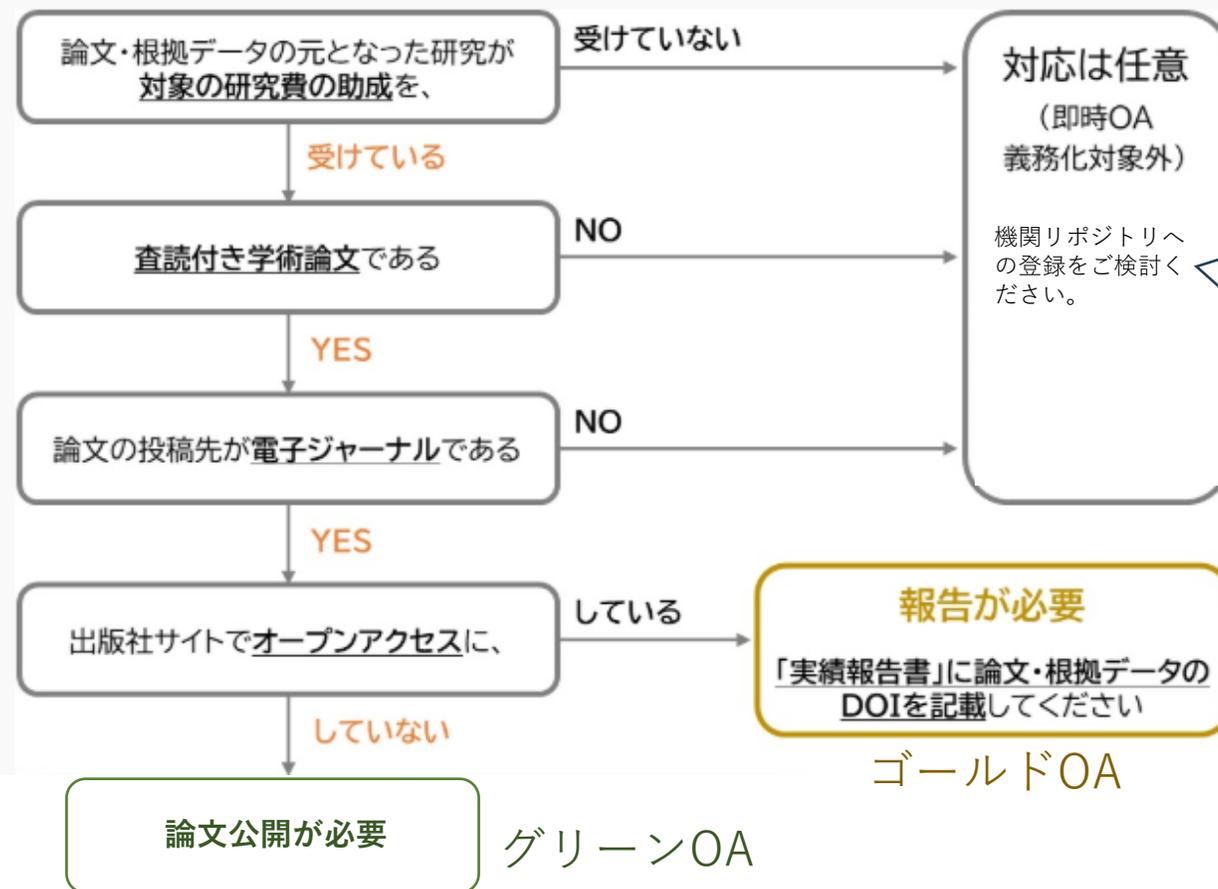
- 詳しくは、附属図書館サイト

TOP > 本学教員の方へ> リポジトリへの登録について（[https://www.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/?page\\_id=204](https://www.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/?page_id=204)）

をご覧ください。

# 即時OA義務化対象外の成果物について

義務化対象確認チャート



## 大阪教育大学オープンアクセス方針

2 本学は、本学に在籍する研究者が、出版社・学協会・学内部局等が発行する学術雑誌や大学紀要等に掲載した論文や報告その他の研究成果を、本学リポジトリによって公開する。ただし、次の各号に掲げる方法で公開されている場合はこの限りではない。なお、研究成果の著作権は本学には移転しない。

- (1) オープンアクセスジャーナルへの掲載
- (2) 論文のオープンアクセス・オプションを選択しての、出版社ウェブサイトへの掲載
- (3) 外部の機関が設置するプレプリント・サーバ等の外部リポジトリへの登録

参考：  
神戸大学附属図書館 | 即時オープンアクセス義務化対応  
(<https://lib.kobe-u.ac.jp/oa/mandatory/>)

# ご遠慮なくご相談ください

- 論文をリポジトリに登録したいが、どうすれば良いのか？
  - ゴールドOA化したいが、この雑誌がどの程度の評価なのか知りたい
- ・・・etc.



リポジトリ担当：学術情報課 雑誌係

内線:3778

[lib-sdipass@bur.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:lib-sdipass@bur.osaka-kyoiku.ac.jp)